

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			・特別な配慮が必要な子どもが安心して生活できるような環境づくり（興奮時に落ち着ける場所等）が必要ですが、クラスの人数が多く空き部屋を用意してあげられない等、個々に応じた教育保育のやり方などに難しい面がありました。関係機関や保護者と話し合ったり、担任が一人で抱え込むことがないように職員会等で共通理解したりし、園全体で園児にかかわるようにしました。
	(11) 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されているか		○			
保護者に対する支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか	○				・登降園時に保護者とのコミュニケーションを積極的にとるようにしていますが、早朝延長保育や1号認定・短時間保育利用の保護者とは、担任が直接話をする機会をとりにくく、お帳面で情報交換できるように配慮しています。それでも保護者アンケートでは、職員の情報交換（送迎時の会話・連絡帳等）に不満足な回答が多かったため、職員間で連携・連絡を密にし、直接保護者と話す機会を作ったり、担任でなくても声をかけるなどして信頼関係を築いていきたいと思います。 ・これまで平日夜に行い参加率の少なかった保護者懇談会を年齢別保育参加の前に変更したところ、多くの方から良かったとの感想が寄せられました。
	(2) 虐待に対応できる園内の体制（医療機関、児童相談所など専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか	○				
教育保育を支える組織的基盤	(1) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか	○				・看護師の専門性を活かし、感染症予防や拡大防止に努めています。また、体調不良児やアレルギー児には、保護者との連絡を取りながら個別に対応しています。 ・避難訓練は毎月、様々な想定や時間帯を変えて行っています。毎月、各クラスの反省や全体での課題を出しており、それについての話し合いを職員間で行いました。いつ起こるかわからない災害ですが、気候や天気等のいろいろな状況でとっさの判断ができることが重要であることと再確認しました。アンケートより不審者訓練の様子がわからないとのご意見があり、園日より等で知らせていくようにしています。 ・事業計画は社会福祉法人小松市大和善隣館ホームページにて掲載されていますが、周知が不十分で事業計画のことがわからない職員がいました。年度初めに施設長より説明し周知できるようにしていきたいと思います。また、利用者にも玄関に掲示し伝えていきます。 ・行事ごとにアンケートをとっていますが、ご意見はお帳面に挟んで提出していただいていたいました。保護者の思ったこと、感じたことを述べやすいように年度途中より、玄関にアンケートボックスを設置しました。保護者からの声を真摯に受け止め、丁寧に応え、安心して意見が言える関係づくりを目指していきます。 ・日々の保育では、日誌を書き振り返りをし、明日の保育に繋げています。行事でも職員会で評価反省を行い、改善できるようにしています。職員全員でおこなう自己評価も職種ごとでおこない、年3回にプラスし、キャリアアップ評価シートで自分の目標、課題を持ち、意欲をもって仕事に取り組めるようにしています。
	(2) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(3) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか	○				
	(4) 地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか	○				
	(5) 施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上を図れるよう努めているか		○			
	(6) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか		○			
	(7) 事業計画が職員に周知されているか		○			
	(8) 事業計画が利用者に周知されているか		○			
	(9) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか		○			
	(10) 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか		○			
	(11) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			
	(13) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか		○			
	(14) 個人の評価結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			
施設関係者評価						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者や避難訓練での職員の取り組みの姿がとてもわかりやすく保護者に知らせてあり、先生方子ども達への安全確保について話し合いがされていることが伝わりました。</li> <li>・発表会では、子どもの主体性を伸ばそうとしている先生方の努力が感じられました。</li> <li>・食事に関する職員間の考え方の違いは、職員一人一人の育った家庭、保育観、性格等も違っていることで、当然ではあるが、どこまで許せるかということにもつながっているのではないかと。量や、雰囲気、準備、片付け、旬の食材等、食事を楽しむことの工夫も気に留めてほしい。</li> <li>・事業計画がわからない職員がいたとこのことで、年度始めの確認の時間をとり周知できるとよい。</li> </ul>						



